

日越大学の開校に向けて



海外交流

渋谷陽二*

Opening of Vietnam Japan University (VJU) in Hanoi

Key Words : Vietnam Japan University, Master's Program in Nanotechnology,
Vietnam National University

1. はじめに

2014年3月にベトナム国家主席チュオン・タン・サンが来日し、そのときの両国首脳の間で共同声明に日越大学構想が盛り込まれました。この時から日越大学が正式に立ち上がり、そのうち大学院修士課程が2016年9月開校をめざして現在進められています。まず持続可能な社会をめざしたサステナビリティ学を中心とした大学院の研究科を考え、その後修士課程の専攻に相当するプログラムを選定する中で、ベトナム側からナノテクノロジーに関しては大阪大学との連携の指名がありました。大阪大学とベトナムとの学術交流はかなり以前から教員レベルで積極的に進められてきており、その中でも工学研究科の笠井秀明名誉教授（現、明石高専校長）の貢献は多大であり、笠井先生とベトナム側のカウンター・パートである Nguyen Hoang Luong 教授（Vietnam National University, Hanoi, University of Science）との間に築かれた長きに亘る友好関係がそれを導いたと言えます。笠井先生が在職中に代表をさせていただきました工学研究科の専攻横断研究組織 量子エンジニアリングデザイン研究イニシアティブ（QEDRI）のメンバーとして参画していた関係で、本プログラムを私の方で引き継ぎさせていただいたのが経緯です。昨年2月にベトナム側が来日してプログラムの内容について議論し、5月に本構想を政府側とし

て進めています。JICA（独立行政法人国際協力機構）と大阪大学が5ヶ年プロジェクトとして契約を結び現在に至っています。ここでは、その内容についてご報告いたします。

2. 日越大学構想

2009年にハノイにおいて第1回の日越学長会議が開催され、そのときにベトナム側から国際ランキングに入る質の高い国際大学としての日越大学の提案があったのが本計画の発端です。その後、2014年3月にベトナム国家主席が来日した際両国の共同声明として盛り込まれ、7月ベトナム国家大学（VNU）の傘下の一大学ではあるが独立性の高い大学として設置が認められました。日本政府においても、2015年に政府レベルの日越大学推進議員懇話会（二階俊博最高顧問、河村健夫会長）、総理官邸タスクホース（世耕弘成内閣官房副長官）が発足し、2016年2月に民間や大学関係者からなる推進委員会が設置されて、官民学あげた体制が整いました。

この日越大学は、国際トップレベルの学術を目指したベトナムの新たな Center of Excellence（COE）になるとともに、現地日系企業を含めたベトナムの工業化を強力に推進する実践的人材を供給する場になることを目指しています。その中で、1) 文理融合、2) 教育と研究の一体化、3) リベラル・アーツの重視、4) 学生の自主的活動の推進、5) 産学連携、といった従来のベトナムにはない大学として大きく期待されています。初代学長には、本プロジェクトの代表でもある古田元夫先生（東京大学名誉教授、元副学長）が就任される予定です。

3. ナノテクノロジープログラム

2016年9月に開校するのは大学院の修士課程で、その後5年程度をかけて、大学院博士課程、学部を



* Yoji SHIBUTANI

1958年5月生
大阪大学 大学院工学研究科博士前期課程 機械工学専攻（1983年）
現在、大阪大学 大学院工学研究科 機械工学専攻 複合メカニクス講座 教授
博士（工学） 固体力学・計算力学
TEL：06-6879-7310
FAX：06-6879-4121
E-mail：sibutani@mech.eng.osaka-u.ac.jp

整備します。最終的には6,000人規模の総合大学とし、ハノイから30km程度離れたホアラックという地に新キャンパスが設立される予定です。9月から開校する修士課程には6専攻が設置され(2017年9月にはさらに1専攻が追加予定)、地域研究、公共政策、企業管理、環境技術、社会基盤、ナノテクノロジーの6プログラムが、それぞれ東京大学、筑波大学、横浜国立大学、東京大学と立命館大学、東京大学、大阪大学を幹事校として、また全専攻に共通な日本語教育については早稲田大学が幹事校としてJICAと契約を締結しています。大阪大学はナノテクノロジープログラムを担当し、これまでカリキュラムの構築、研究分野の策定、入試といった事項がVNUのカウンターパートと協力して進められてきました。

本プログラムでは、将来先端研究を担う研究者、あるいは革新的な先進技術を先導する技術者の輩出を目指して、量子力学を規範にした物理、化学、生物工学の3分野の学際的な学びができるカリキュラムとなっています。修士1年生では、大阪大学、立命館大学の教員による英語の講義を受講し、学際融合的な視点の基礎を身につけます(図1参照。昨年12月の開校に向けたセミナーで用いた資料のため、ベトナム語が併記されています)。国際レベルの学術性を持ちつつ、今後のベトナムのみならず世界の

技術を先導する技術開発の両面を目指すには、多岐に亘る複合的な諸問題を根源的に考え抜ける力が必要です。そのため、本プログラムでは量子力学を必修科目としてその柱にしています。物理以外に、化学、生物出身の学生にも門戸を開いていますので、ハードルの高い科目履修であると言えますが、化学や生物においても、最近の分子創成技術、遺伝子組み換え、創薬といった今後発展する分野において不可欠な学問分野であることは言うまでもありません。したがって、その基礎をしっかりと身につけた上で3つの分野を学ぶことが、国際レベルの研究とともにR&Dを中心とした革新的技術の創出を担える人材の育成につながると考えています。

修士1年次に上記の科目履修を終えた後、2年生で最長3ヶ月程度のインターンシップとして、大阪大学等の日本の大学での研究の実施や、日本のトップ企業における就業体験を行う予定にしています。国民の平均年齢が30歳程度(日本は45歳程度)と非常に若い人材が多く、その若者は日本、特に日本企業に対する興味が大変大きいことから、インターンシップは将来のキャリア・パスを考える上で大変貴重な経験になると思います。残りの時間で修士研究を行います。日本のように十分な時間の確保と充実した研究環境の提供が難しい面がありますので、引き続き研究に専念することを希望する学生には、

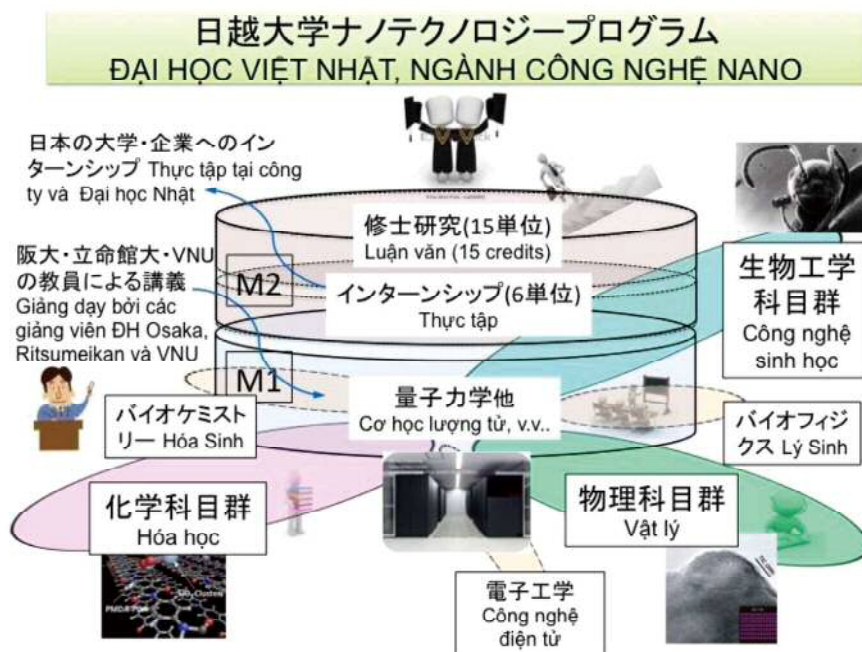


図1 ナノテクノロジープログラムのカリキュラム構成

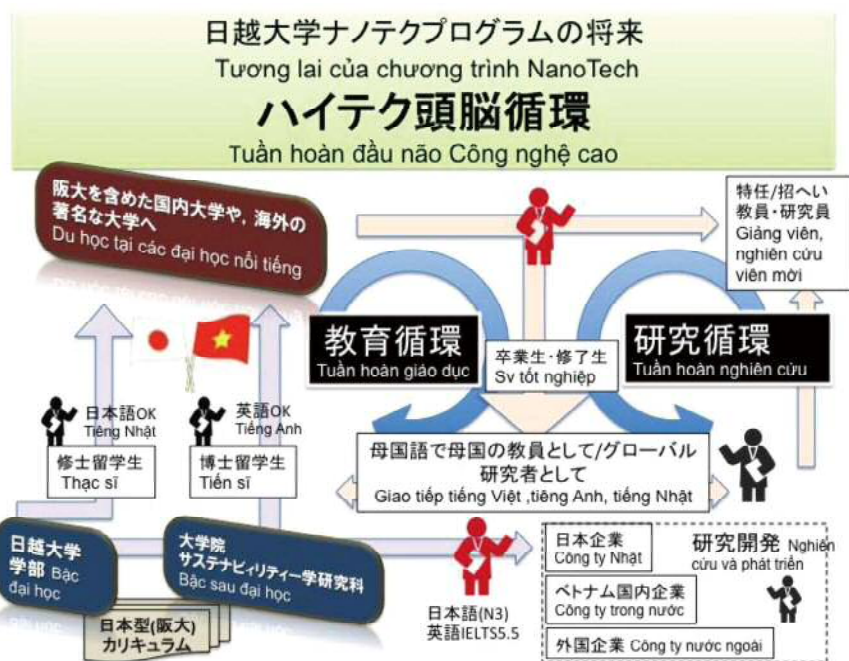


図2 日越大学ナノテクノロジープログラムと日本とのハイテク頭脳循環

大阪大学をはじめとする日本のトップ大学の博士後期課程進学や、現在計画されています日越大学大学院博士課程への進学を履修指導していく予定です。日本のカリキュラムを導入した修士課程を終え、大阪大学等の博士課程で学位を取得した学生が、ベトナムでの教員、研究員として後続する若い人材の育成を自らの手で進めていくループが完成すると、図2のような教育と研究の循環を引き起こすハイテク頭脳循環ができあがります。本プログラムではそのことを将来ビジョンにしています。

4. 最後に

日本の産業が長年の地道な努力と技術の蓄積の結果として現在があることを考えますと、ベトナムにおける急速な環境のみの変化は必ずしも安定でかつ

持続性のある発展にならないことは言うまでもありません。まずは、その産業を支える人材の育成を最低10年かけてしっかりと行い、その間に輩出された人材がベトナムそして日本において活躍する実績を残すことが、この日越大学、特に産業界と密接に関係したナノテクノロジープログラムに求められます。本プログラムは、ベトナムと日本の産業振興を通じた共存のための人材育成機関になることを目指し、ベトナムと日本が教育と研究で互いの頭脳循環を引き起こすことによって、その過程で育つ非常に優秀な人材が、両国の産業の高度な発展を直接担う仕組み作りを考えています。

今後とも学界、産業界ともにこの日越大学発展のためにご支援、ご協力を賜りたいと思います。